

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市歴史民俗資料館
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3 指定期間	平成29年(2017)4月1日～令和4年(2022)3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和2年度 9,678人(前年度比31.5%) 令和元年度 30,747人 平成30年度 27,842人
	《事業》 市指定文化財である歩兵第四連隊兵舎の維持管理、江戸時代から現代の歴史・民俗資料の収集・整理及び常設展示、年3回の企画展・特別展と年4回の季節展示、調査研究事業、普及啓発事業
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 68,670千円 ( 67,596 千円) ・ その他市が負担した費用 396千円 ( 0 千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 692千円 ( 1,014 千円) ・ その他収入 356千円 ( 335 千円)
6 利用者の声	《実施状況》 特別展企画展毎にアンケートを実施 令和2年12月 利用者アンケート実施

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、職員に周知の上、業務が遂行されている。また、資料の収集、展示、解説・講座の開催等により、地域博物館としての役割と施設の設置目的を果たしている。今後は業務の合理化・効率化の推進等により、事業内容の一層の充実が望まれる。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績、開館状況は適切であり、指定管理料も適正に執行されている。個人情報保護や事故防止対策、災害対応については研修等を通じて職員に周知され、体制も整えられている。防災訓練は地域住民の参加を得られるよう、関係性が構築されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物が仙台市指定有形文化財「旧第四連隊兵舎」であることを踏まえ、所管課・関係課と適時調整しながら施設の維持に取り組むとともに、内部や外周の美化に努める等、市民等が安心・安全に利用できるよう、適切に管理されている。また、紙のリサイクルや節水・節電など、仙台市環境行動計画が実践されている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナー、受付案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。また、利用者アンケートの結果や寄せられた苦情等は定例のミーティングを通じて共有し対応する等、職員の教育・研修も適当である。令和2年度からはTwitterを開始するなど、情報発信に積極的に取り組んでいる。	28/28

<p>V 施設固有の基準</p>	<p>協定書や仕様書に基づき、施設を適切に管理するとともに、近隣の施設や市民等と良好な関係を保ちながら、事業計画書に基づき事業を実施している。資料の収集・整理・保管に係る取り組みとしては、独自の収集基準や収蔵室の整理方針が検討される等、事業の強化がなされた。普及啓発事業については、新型コロナウイルス感染症対策として規模を縮小ないし中止せざるを得なかったものの、開催された展示やイベントは市民から好評であり、今後より一層の充実が期待される。</p>	<p>12/12</p>
------------------	--	--------------

### 三 評価総括

<p>《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》</p>	
<p>施設の管理運営は感染症のまん延防止のため4月から約1か月間と年度末の3月下旬の2度にわたり臨時休館したこと、集客が見込めたイベントを中止したことにより入館者数は9,678人となり、前年度の約31.5%となった。一方、図録や調査報告書など刊行物の売上は前年度の92%となり、刊行物は市民の関心によく合致した内容であったことが伺える。学校見学については仙台市内の小学校54校3,452人の児童が授業の一環として団体で来館し、石臼挽き体験や行灯の明かりを見る体験学習は374回に及び、博学連携は順調な状態といえる。また、新たに9月1日からTwitterを開始し、利用者への迅速な情報提供を心がけている。</p> <p>資料の収集・整理・保管に関わる事業では資料の寄贈が41件2,634点にのぼり、資料の収蔵点数は94,000点を超えた。調査研究事業では資料目録を資料集として刊行し、一年を通じて行っている学芸員による調査活動や研究成果をまとめた調査報告書を刊行した。展示事業ではすべてオリジナルな企画展・特別展を3回開催し、関連イベント等を合計18回開催し、収蔵資料の研究成果と継続して取り組む調査結果をわかりやすく紹介した。特に東日本大震災から10年の節目として開催した特別展「仙台の災害」では、地震に加えて過去の疫病についても取り上げたため、多くの市民の関心を呼んだ。また、常設展示の展示図録も刊行し、展示内容の理解に努めた。</p> <p>今後も仙台の町の歴史と人々の暮らしを後世に伝える施設としての役割と使命を自覚し、仙台市の文化行政を担う拠点の一つとして、市民の皆さまの付託に応えられるよう職員一丸となって取り組んでいきたい。</p>	

<p>《施設設置者（仙台市）による評価》</p>	<p>総合評価</p>
<p>施設の運営管理体制、施設・設備の維持管理、公共施設としてのサービスの提供は適切であり、設置目的の達成に向け、本市の近現代史や民俗を扱ったさまざまな事業が展開されている。特に、学校連携事業においては、コロナ禍の影響はあるものの、54校3452人の見学を受け入れるなど、非常に順調であり、これまでの取り組みの成果が表れているものと理解できる。また、情報発信の取り組みとして、SNS（Twitter）の運用を始めるなど、若年層にとっても親しみやすい手法で広報が始められていることは評価される。一方で、業務体制の検討を含めて、より意欲的な取り組みが期待される。具体的には下記のとおりである。</p> <p>①資料の収集・整理・保管については、増加する資料に対し、整理作業や台帳整備が進んでいない状況である。すでに収集されている資料との関係を加味しつつ、収蔵基準に基づいて精査しながら収集するとともに、収集後の展示や体験学習への活用等を念頭においた効率的な整理・保管が望まれる。</p> <p>②資料の展示ならびに調査研究については、リピーターを獲得している一方で、テーマのマンネリ化や協働団体の固定化が懸念される。40年超の歴史の中で収集されてきた多種多様な資料を活かし、本市の歴史や文化を多彩な切り口から紹介しながら、市民との協働により、さらに魅力ある施設として運営されることを期待する。</p>	<p>S</p>

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

<p>特記事項</p>
<p></p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課